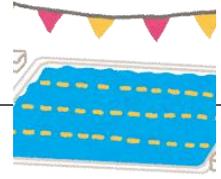




聴覚に障害のある子どもへの指導・支援



プール学習では どのような配慮をしたらいいでしょうか。



補聴器には防水能力がないため、水泳の時には外さなければなりません。
補聴器を外してしまうため、さらに配慮が必要になります。
以下のことを参考に、対応をお願いします。

入水前

補聴器を外したら「〇〇に保管する。」と決めておきましょう。

- ・本人と「どこに・なにに保管する」のか相談し、確認してください。



入水中

補聴器を外すため きき取りができなくなります。
見てわかる(視覚的な配慮)提示の仕方をしましょう。

- ・事前に、活動の内容を伝えておく。
または活動内容を文字(ホワイトボード)で提示する。
- ・活動のモデルを示し、指示や内容を理解できる工夫をする。
- ・ホイッスル・太鼓の音はきこえにくくなるため、ハンドサインや身振り、旗を利用し、視覚的にわかる合図を工夫する。

1 準備体操
2 バタ足練習
3 ゲーム



入水後

髪の毛が濡れたまま補聴器を装用すると、故障の原因になります。
しっかりと手入れをしましょう。

- ・入試後は、濡れた髪をしっかりとタオルドライする。
または、ドライヤーで髪の毛を乾かす。
髪の毛が乾ききらないときには、ヘアバンドなどで濡れた髪が補聴器にかからないよう工夫をする。
- ・耳の中の水を丁寧にふき取る、または綿棒で水分を取ってから、補聴器をつける。

